

歴史を訪ねて

社会福祉法人大悲会が運営する「くるみ保育園」の新園舎が完成し、昨年12月から新園舎での保育が始まりました。さらに、4月には認定こども園として開園する予定で、本町の保育環境がより充実していきます。

くるみ保育園の歴史

戦時体制下の銃後事業の一つとして、応召家庭（戦争で家族が出征した家庭）の幼児保育が行われていました。この流れの中で、昭和17年4月に宮崎光が弘誓寺の本堂で託児所を開いたことが、後の「くるみ保育園」、そして、本町の児童福祉施設の始まりです。

終戦後、昭和20年10月にこの託児所は廃止されましたが、28年に宮崎光が近所の主婦と協力して再開し、30年には私財を投じて「くるみ保育園」を設立しました。この時点ではまだ無認可でしたが、本格的な保育事業が始まりました。

次第に入園希望者が増え、通年制の認可保育園が望まれるようになった昭和43年12月、社会福祉法人大悲会が設立され、旧東園小学校の校舎を移築改装して園舎を整備。翌年3月には定員60人の通年制認可保育園が誕生しました。

以来、定員の増減や園舎の老朽化に対応しながら増改築を重ねてきましたが、運営主体である大悲会は、新たに園舎を中央ふれあい広場（旧児童公園）内に新築移転することを決定。それにあわせて、幼稚園と保育園の良さを併せ持ち、教育と保育を一体的に行う「認定こども園」を、令和7年4月に開設することになりました。

（参考・比布町史）



遊具で遊ぶ園児たち（昭和39年撮影）

弘誓寺の本堂横に設けられた遊具で元気に遊ぶ園児たち。当時の定員は40人で、年間290日開設されていました。



園舎をリニューアル（平成9年撮影）

老朽化に伴い改築された園舎。改築後は約28年間にわたり使用され、多くの園児たちの思い出が詰まった場所となりました（現在は解体済み）。



くるみ保育園新園舎の外観（令和6年11月撮影）

木のぬくもりをいっぱい感じられる園舎に生まれ変わりました。

発行・編集

ふるさと通信『びび』令和7年3月5日発行（通巻第25号）

■発行 比布町

■編集 総務企画課 総合政策室 まち発信係

〒078-0392 北海道上川郡比布町北町1丁目2番1号

☎0166-85-2111（代表） 0166-85-4802（総合政策室直通）

□ホームページ <http://www.town.pippu.hokkaido.jp>

□Eメール ichigo@town.pippu.hokkaido.jp



ナナブラザの新品「いちごピネガー」

まちの人口

総数 3,413人

男 1,611人

女 1,802人

世帯数 1,756世帯

■令和7年1月末日現在
住民基本台帳等登録数

比布町ふるさと通信『びび』は、比布を離れられた人と比布を結ぶ情報紙です。
みなさまから、町外で暮らしているご家族やご友人へお届けください。